

「大塚十能の辻」

大塚西端の十能の辻には、西尾から豊橋を海沿いに結ぶ平坂街道が通っていました。



現在の景色

この先の星越(絵の中央)は、昔、大八車を引いて登り降りするのが大変な難所として知られ、また追いはぎやカマイタチの出る物騒な場所であったと言われていました。

しかし、この大塚に明治40年海岸道路が開通、さらに昭和46年には星越バイパスが完成して街道としての役割を果たしました。平成12年には、近くにラグーナ蒲郡が完成し、今はそれによる渋滞の抜け道として利用されています。かつては難所として知られた星越も、風光明媚な住宅地となってそのたたずまいを今に伝えています。

| | |
|-------------------|-------|
| ほほえみプラン21 | 3-5 |
| 健康がまごおり21 - 運動編 - | 6 |
| 不妊治療あんしんサポート | 7 |
| MYスクール・図書館だより | 8 |
| まちの達人・読む水族館 | 9 |
| お知らせ | 10-18 |
| 無料相談日程 | 19 |
| クイズまちがいさがし・編集後記 | 20 |
| 市民総ぐるみ防災訓練 | 21 |
| 記念企画展「蒲郡の句碑・歌碑」 | 22 |
| こどもミュージアム | 22 |

作者紹介



清水 昇

私は、わが郷土の風景を描き留めたいと思い立ち、数年前から市内をくまなく歩き廻りスケッチをしています。スケッチをする景色は、辻(交差点)が中心です。それは、街を代表する景色が辻にあるからです。しかし、写真を撮ってみて気づきましたが、私たちの心のイメージとどこか違います。

それは、電柱、電線、信号機、道路標識、ガードレールなどが風景を覆ってしまっているからです。電気や信号など、私たちの生活に欠かすことのできないものですが、これらを取り払って絵にすると、心の風景が見つかり、50年も前の懐かしい風景に出会うことができました。

「辻は、文化や人、物が出合うところ」とも言います。そこで、醸し出される風景や魅力を、今後、絵を通して紹介していきたいと思っています。



樹木医・技術士(建設部門) 原野 幹義

「街が香る木・キンモクセイ」

空気の澄んでいるこの季節、街を散策していると、突然、懐かしい甘い香りに包まれる。辺りを見回せば家々の庭の一隅に、淡い乳橙色の金木犀。季節の移ろいを感じるひとときです。

このところ、芳香剤での出番も少なくなり、純粹に自然の香りを楽しむことができるようになった気がします。

私たちが、「キンモクセイ」という言葉から連想される香りのイメージよりも、もともとはずっと、淡く優しい香りであったことに気づかされるのではないのでしょうか。

「キンモクセイ」は、大陸から雄木だけが渡来し、実も付けないというのに、香りに誘われ辻をめぐるほどに、人々に愛され植え続けられてきたのでしょう。



作者紹介



原野 幹義

東京の造園設計事務所に就職したてで、不安と希望で混んとしていた頃のこと、「この仕事を続けていく上で大切な事は何ですか?」との私の問いかけにチーフデザイナーは「小さなことに感動する心」と即座に答えてくれました。電卓を左手で打つことや専門書を読んだり、最新の公園や伝統的な日本庭園の見学に行くことではなくです。

日本に住む私たちの暮らしと文化は、繊細な季節の移ろいと共にあります。その移ろいの要となる植物との出会いの、きざはしになればと思っています。